

令和5年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：令和5年（2023年）6月29日（木）11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス+WEB

出席者（大阪大学東京オフィス）：

小野 滋（理事長）、家入里志（副理事長）、尾花和子、加治 建、田中秀明、平林 健、淵本康史、米田光宏（以上理事）、照井慶太（庶務委員長）、田中奈々（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計委員長）、山田洋平（財務会計副委員長）、柴田晶子（事務局）

出席者（WEB）：

田尻達郎（理事・会長）、浮山越史（理事・次期会長）、石橋広樹、内田広夫（以上理事）、奥山宏臣、越永従道（以上監事）、松浦俊治（庶務委員）、岡島英明（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門制度庶務委員会委員長）、臼井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）、田中 潔（第40回秋季シンポジウム会長）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム会長）

欠席者：木下義晶（施設認定委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 山田洋平財務会計副委員長より、就任にあたっての挨拶が述べられた。
2. 第2回定例理事会の議事録署名人は、田中秀明理事、平林 健理事とした。
3. 令和4年度第6回、令和5年度第1回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
4. 審議事項

1) 第60回学術集会について（奥山前会長）

奥山前会長より、開催への協力に対する謝辞が述べられた。収支報告については現在取りまとめ中であることが報告された。オンライン参加登録数1198名・現地来場者数993名で、参加者比率は現地とWEBで8：2であったことや、参加者の属性等について報告された。また、ポスター発表21演題が取り下げになったが、その内15演題は悪天候により発表者が会場に来ることができなかつたためであり、本人に確認の上、取り下げになったことが報告された。

2) 第61回学術集会について（田尻会長）

田尻会長より、松浦俊治評議員が第61回学術集会事務局長に就任することが報告され、松浦事務局長より就任の挨拶が述べられた。

資料に基づき準備状況が報告提案され、以下のように承認された。

1. 第61回学術集会において、ライブ配信を予定していることが報告された。第60回学術集会の参加者比率が現地とWEBで8：2だったことから、WEB参加の一定数の需要があるこ

とが再確認されたこともあり、越永監事より、ライブ配信やオンデマンドなどの費用の一部を学会本体が負担しても良いのではないかと、との意見が述べられた。田尻会長より、第61回学術集会でのライブ配信費用は予算内で収まる見込みであることが報告され、また、外科学会がサブスペシャルティを含めてライブ配信システムを共有することを検討しているため、第61回学術集会には間に合わないかもしれないが、このシステムを利用できるようになれば費用が抑えられるのではないかと述べられた。

2. 特別企画・学会企画の「小児外科医の働き方改革」について、ワークライフバランス検討委員会との共同企画とすることを検討していることが報告された。これに対し、尾花ワークライフバランス検討委員会担当理事より、新委員会発足後に第39回秋季シンポジウムでの委員会企画について検討してから、第61回学術集会での共同企画について検討することになると述べられた。

3. 第2次会告について「JSPS Prizeのお知らせ」の文言を修正することが確認された。

4. 外科専門医の共通講習会について、小児外科学会では、研究倫理、倫理・医療安全、小児救急、感染の4つを順番に開催していることが確認された。通常であれば第61回学術集会における講習会のテーマは“感染”だが、第39回秋季シンポジウムのテーマと被るため、“倫理・医療安全”とすることが承認された。田尻会長から石橋倫理・医療安全管理委員会担当理事に企画の検討の依頼がなされ、石橋理事はこれを了承した。

3) 第62回学術集会について（浮山次期会長）

浮山次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

内田教育担当理事より、2023年から開始するサマースクールを学術集会に併せて開催することを検討いただきたいとの希望が述べられ、了承された。

会期：2025年6月5日(木)～6月7日(土)

会場：一橋大学一橋講堂 〒101-8439 千代田区一ツ橋2-1-2

4) 第39回秋季シンポジウムについて（臼井秋季シンポジウム会長）

臼井次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

日時：2023年10月28日（土）

会場：九州大学百年講堂

テーマ：小児外科領域における感染症対策

5) 第40回秋季シンポジウムについて（田中潔次期秋季シンポジウム会長）

田中次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され、承認された。

公募＋一部指定で演題を募集し、応募演題によってセッションを組む予定であることが報告された。

日時：令和6年10月26日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：少子化時代における小児外科医育成

開催形式：現地開催＋ライブ配信（予定）

6) 第 41 回秋季シンポジウムについて（大植次々期秋季シンポジウム会長）

大植次々期秋季シンポジウム会長より、口頭で進捗状況が報告された。

日時：令和 7 年 11 月 1 日（土）

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

7) 令和 5 年度総合調整委員会日程について（家入副理事長）

家入副理事長より総合調整委員会の開催日程について提案があり、以下の通りとなった。
会場は設けず完全ウェブにて開催予定とした。

総合調整委員会

第 1 回 2023 年 8 月 28 日(月) 14:00～17:00

第 2 回 2023 年 10 月 3 日(火) 14:00～17:00

第 3 回 2023 年 12 月 4 日(月) 14:00～17:00

第 4 回 2024 年 2 月 19 日(月) 14:00～17:00

8) 各種委員会の担当理事及び委員長について（小野理事長）

小野理事長より各種委員会担当理事および委員長について提案があり、以下の通り承認された。特別委員会である PSI Pub Committee については北川博昭前委員長、田中秀明機関誌委員会担当理事と検討した結果、大植孝治前担当理事に委員長就任していただくことになったことが報告された。委員のノミネートについては 7 月 21 日までに小野理事長と事務局宛に連絡することとした。

奥山監事より、委員に就任していただくのは評議員と定められているが、正会員に委員になっていただくことも視野に入れて良いのではないかとの意見が述べられた。

照井庶務委員長より、現在、委員の選任については施行細則第 5 章 26 条に

第 5 章 常設委員会ならびに特設委員会

（常設ならびに特設委員会選任に関する規則）

第 26 条 当該委員会を統括する理事（以下担当理事）は、理事会が選任する。

2（委員長及び委員）委員会の委員長及び、外部委員を除く委員は、評議員の中からその意思を尊重して、理事会の承認得て、理事長が委嘱する。委員長は当該委員会の委員候補者を推薦することができる。

と定められていることが確認された。

田尻会長より、施行細則の変更は理事会承認、評議員会報告となるので、正会員も委員に就任できる形にすれば良いのではないかとの意見が述べられた。

規約委員会発足後に施行細則第 5 章 26 条の文言の変更を検討し、令和 5 年度（2023 年度）から正会員も委員になることができるように施行細則を変更することが承認された。

庶務委員会：担当理事 家入副理事長、照井慶太委員長
 財務会計委員会：担当理事 家入副理事長、上原秀一郎委員長
 機関紙委員会：担当理事 田中秀明理事、松浦俊治委員長
 国際・広報委員会：担当理事 瀧本理事、宮野 剛委員長
 保険診療委員会：担当理事 尾花理事、田井中貴久委員長
 教育委員会：担当理事 内田理事、望月響子委員長
 悪性腫瘍委員会：担当理事 平林理事、小松秀吾委員長
 学術・先進医療検討委員会：担当理事 米田理事、中田光政委員長
 倫理・医療安全管理委員会：担当理事 石橋理事、瓜田泰久委員長
 データベース委員会：担当理事 田中秀明理事、藤野明浩委員長
 小児救急検討委員会：担当理事 平林理事、好沢 克委員長
 トランジション検討委員会：担当理事 加治理事、小林 隆委員長
 ワークライフバランス検討委員会：担当理事 尾花理事、城田千代栄委員長
 規約委員会：担当理事 石橋理事、森 大樹委員長
 研究倫理委員会：担当理事 石橋理事、薄井佳子委員長
 利益相反委員会：担当理事 米田理事、上野豪久委員長
 NCD 連絡委員会：担当理事 瀧本理事、藤代 準委員長
 ガイドライン委員会：担当理事 加治理事、文野誠久委員長
 医薬品医療機器検討委員会：担当理事 内田理事、古田繁行委員長
 ロボット支援手術レギュレーション検討委員会：担当理事 家入副理事長、古賀寛之委員長
 長
 PSI Pub Committee：担当理事 田中秀明理事、大植孝治委員長

9) 新庶務委員（会長付）について（小野理事長）

松浦俊治評議員が会長付庶務委員に就任することが報告された。

10) 対外委員のメンバーについて（小野理事長）

小野理事長より、対外委員メンバーの提案がなされ、承認された。なお、日本小児期外科系関連学会協議会への対外委員については、先方から委員任期満了の際に連絡があるので、その時に再度検討することとした。

田尻会長より、日本小児医療保健協議会(四者協)について、今まで小児外科学会はオブザーバーとして理事長・前理事長・前々理事長が参加していたが、四者協の田口智章会長より6月29日付で今後は理事の一枠を担ってほしいというメールをいただいたことが報告された。理事になる場合、この名簿から「オブザーバー参加」を削除し、小野理事長の名前のみを掲載すれば良いのではないかと述べられた。

日本医学会	評議員	小野 滋
	連絡委員	家入里志
	用語委員	内田広夫
	用語代委員	望月響子

日本小児医療政策研究会	小野 滋
小児救急連絡協議会	小野 滋 平林 健
外科関連専門医制度委員会	小野 滋 家入里志 木下義晶 岡島英明
世界小児外科学会連合代表	淵本康史
外科系学会社会保険委員会連合（外保連）	尾花和子 田井中貴久
外科関連学会協議会	小野 滋 家入里志
小児専門管理栄養士制度合同協議会	小野 滋
日本外科学会保険診療委員会	尾花和子 田井中貴久
臓器移植関連学会協議会	上野豪久
National Clinical Database	小野 滋 田中秀明 淵本康史 岡島英明

11) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会（照井委員長）

照井委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2023年5月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,652名（うち海外2名）、評議員284名、準会員27名、名誉会員55名（うち海外8名）、特別会員68名（うち海外1名）、賛助会員1団体の合計2,086名+1団体である。

名誉会員の世良好史先生の訃報は同門会会長の山本 裕俊先生に機関誌委員会から執筆を依頼すること、特別会員の角岡秀彦先生の訃報については、機関誌委員会から名古屋市立大学教授の近藤知史先生に執筆者をご推薦いただくことが承認された。

(2) 財務会計委員会（上原委員長）

上原委員長より、一般社団法人の社員総会で報告した通り、財政状況は改善されているため、各委員会で新規の企画を立ち上げていただければ予算をつけていくのでご協力いただきたいと述べられた。

(3) 専門医制度委員会（専門医制度各委員長）

古村眞専門医制度庶務委員会委員長より、資料に基づき専門医制度委員会について報告さ

れた。新専門医制度対応について、NCD カウントロジックシステム変更は最大で 200 万円程の予算が必要になることが報告された。

岡島英明専門医認定委員会委員長より、6 月 27 日に開催された連動更新ワーキンググループについて報告された。

- ・従来、外科専門医で NCD の症例数が足りなかった場合、認定登録医としてペンディングになり、一年以内に更新に必要な症例数に達した場合は専門医として更新が認められるという流れだったが、一年以内という縛りがなくなることになった。複数のサブスペシャリティで海外在住者で専門医資格を喪失する方がいたため、それを改善するための変更である。
- ・連動更新を行う場合、システム構築のために各学会で分担金が発生するが、各学会の人数に応じて割り当てるといった形になった。

NCD カウントロジックシステム変更と連動更新システム構築のための二つの費用が必要となることが確認された。

古村眞専門制度庶務委員会委員長より、新制度の連動更新の開始時期については 6 領域のサブスペシャリティ領域で相談して行くことが報告され、承認された。

(4) 機関誌委員会 (田中秀明担当理事)

田中理事より、庶務委員会の審議事項で承認された通り、物故会員の追悼文執筆依頼を進めていくことが報告された。

(5) 国際・広報委員会 (湊本担当理事)

湊本担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・PR ビデオの公開方法について、バナーのトップに YouTube へのリンクを埋め込んで誰でも閲覧可能とし、会員専用ページに掲載した利用規定に同意した会員のみダウンロードできる設定にすることが承認された。

(6) 保険診療委員会 (尾花担当理事)

尾花担当理事より、診療報酬改定の要請、ロボット支援下 CBD について報告された。

- ・令和 6 年度の診療報酬改定の要請を提出したが、まだ審議が始まっていない。
- ・ロボット支援下 CBD のレジストリに関して 2023 年 1 月分から NCD で選べるようになった。件数を蓄積して報告しなければならないので、ロボット支援下 CBD を行っている施設の先生方にはロボット CBD を選択していただき、実際の件数を来年度報告する旨が述べられた。

内田理事より、ロボット支援下 CBD については小児外科が成人のものも含めて報告するのかとの質問があり、尾花担当理事より、小児外科から申請したものなので、そうなると思うとの回答がなされた。

(7) 教育委員会 (内田担当理事)

内田担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・小児外科サマースクールについて小野理事長から審議・報告がある旨が述べられた。

- ・第38回卒後教育セミナーの進捗状況について報告された。
- ・第14回小児内視鏡外科手術セミナーの進捗状況について報告された。
- ・PRビデオの進捗状況について報告された。
- ・eラーニングの進捗状況について報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、委員会メンバーを選定していくことが報告された。

小野理事長より、引継ぎ事項として登録事業は終わっているが追跡の件が少し残っていることが伝えられると共に、歴代委員長に引き継がれてきた過去のデータについて包括的にご検討いただきたい旨が述べられた。

(9) 学術・先進医療検討委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

瓜田新委員長と共に、第61回学術集会の審議の際に依頼された講習会の講師を選定して、共通講習になる形で準備を進めていくことが報告された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、委員会の新メンバーと協議していく予定であることが述べられ、2024年度の小児救急医学会会長を務める浮山次期会長とも連携していきたい旨が述べられた。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

・成人期に移行する症例もあるので、成人の消化器病内科の先生方と学会や研究会を作ることができないかという動きがあり、そうした動きは当学会のトランジションと関わりがあるのではないかという意見が寄せられている。新委員会が発足したら検討していきたいと考えている旨が述べられた。

(14) ワークライフバランス検討委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、秋季シンポジウムの委員会企画講演の取り下げについて審議するか否か確認があり、議論がなされた。

議論の結果、本来、新委員会発足後に委員会からの審議事項とすべきことではあるが、第39回秋季シンポジウムのタイムスケジュールに影響するため、第2回理事会で審議することとなり、ワークライフバランス検討委員会企画講演の取り下げを承認することになった。

浮山前担当理事、東間前委員長、尾花担当理事、新委員長で、企画取り下げに至った経緯、

委員会の体制、今後の企画等について議論することになった。

尾花担当理事より、今後、どのような形で委員会活動をしていくか、学会から委員会に求めている立ち位置を示すことが求められた。

(15) 規約委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議報告事項がない旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

- ・前回の理事会で学術集会の演題の倫理審査の詳細報告をし、HPに掲載することになったので、現在、尾山前委員長に作成してもらっている。
- ・疑義がある演題を倫理審査委員会宛に送ってもらう際の、審査用フォーマットを作成し、理事会フォルダの学術集会抄録の研究倫理と COI のチェックというフォルダにアップした。次回学術集会から活用していただきたい。

小野理事長より、査読者への啓発用フォーマットの作成が求められ、石橋担当理事より、第 60 回学術集会では査読者と委員会のカテゴリの不一致が多々あったため、啓発の意味も含めて HP に第 60 回学術集会の結果をアップすると述べられた。

(17) NCD 連絡委員会（淵本担当理事）

淵本担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・NCD 小児外科領域 2024 年度改修要望について、術式変更 1 件（3 術式）、新規術式 1 件（1 術式）、説明追加 1 件（3 術式）を NCD 事務局に提出することについて、承認された。
- ・NCD-P 入力マニュアルの入力画面を新たに作成した 2023 年度版に差し替えることについて承認された。
- ・令和 4 年度第 5 回 NCD 連絡委員会議事録が報告された。
- ・常設委員会に Audit 委員会を設定してほしいという意見が出ていることが報告され、総合調整委員会、理事会で検討していくことになった。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、米田前担当理事に意見が求められ、米田前担当理事から資料に基づき報告された。

- ・小児外科診療に関連するガイドラインについての審査について、2023 年 2 月以降新規案件がないことが報告された。
- ・小児外科診療に関する学会主導ガイドライン作成あるいは協力について報告された。
- ・学会 HP ガイドラインの更新について報告された。
- ・第 123 回日本外科学会定期学術集会（2023 年 4 月）サージカルフォーラムにて、演題『希少小児外科疾患診療ガイドラインの効能・限界とその先について』を発表したことが報告された。
- ・前期（令和 3-4 年度）委員は全員新任であり、今後の委員会活動の継続性を考え、今期

(令和 5-6 年度) は半分の委員を改組としたい旨が報告された。

(19) 利益相反委員会 (米田担当理事)

米田担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会 (内田担当理事)

内田担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

- ・オムニパークの申請について意見が求められ、賛同者多数であることが確認された。

(21) ロボット支援手術レギュレーション検討委員会 (家入副理事長)

家入副理事長より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(22) 総合調整委員会 (家入委員長)

家入委員長より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

小野理事長より、奥山監事のご尽力により子ども家庭庁とコネクションができたことを受けて、子ども家庭庁担当理事を決めた方が良いという意見が寄せられたことが報告された。小野理事長が子ども家庭庁担当理事に就任することが提案され、承認された。

小野理事長より、今後の方針、行政への働きかけなどについて、どのようにしていくかを総合調整委員会で議論していただきたいと述べられた。

奥山監事(第 60 回学術集会会長)より、野田聖子議員事務所に学術集会でご講演いただいたことについて御礼の電話をしたところ、秘書の方から、子ども家庭庁の政策についてはまだ白紙の部分が多いので、野田議員の事務所に小児外科学会から継続的に要望をあげてほしいと伝えられたことが報告された。

奥山監事(前理事長)より、U45WG は総合調整委員会の諮問機関として立ち上げたので、定期的に諮問する形にもって行っていただきたい、と述べられた。

家入委員長より、第 61 回学術集会のプログラムの構成に関してどのような内容を盛り込むのか、といったことを U45WG に投げかけて、議論してもらうことになった。

(23) 日本外科学会理事会 (田尻前々理事長)

田尻会長より、資料に基づき日本外科学会専門医制度委員会について報告された。

- ・2026 年には新制度の更新受付を開始する必要があるものの、学会認定の外科専門医(約 23,800 名)の対応については、過日の日本外科学会理事会にて、「新専門医へ移行するか、学会専門医として更新するか選択制とする」方向性が決定済みであるため、学会認定の外科専門医においては、当面は選択肢の一つとして残すことが報告された。

(24) 四者協関連 (小野理事長)

小野理事長より、奥山監事(前理事長)のやり方を踏襲し、参画していくことが報告された。

田口智章会長にご連絡いただいた理事就任の件について確認することが報告された。

12) 胆道閉鎖症全国登録並びに胆道閉鎖症診療ガイドライン改訂に関わる調査研究への協力依頼（小野理事長）

小野理事長より、日本胆道閉鎖症研究会からの審議依頼文書が示された。議論の結果、学術・先進医療検討委員会発足後に委員会で検討の上、理事会での審議事項とすることが承認された。

13) 特別支援学校の「子どものための指定福祉避難所」施設整備と指定・公示促進に関するお願い（日本小児神経学会）（小野理事長）

小野理事長より、資料に基づき報告され、承認された。

14) 「単回使用ビボナ気管切開チューブ」納期遅延のご案内（小野理事長）

小野理事長より、資料に基づき報告された。

1. 報告事項

1) 理事長報告（小野理事長）

(1) 第1回小児外科サマースクールについて

小野理事長より、サマースクールの進捗状況について報告承認された。

・サマースクールの開催準備過程で、エネルギーデバイスジェネレーターのレンタルについて各社と交渉したが、医学生を対象にした場合はレンタルするのは困難という結論に至った。対策としてコードレスのソニシジョンを使用することを検討したが、リユースのジェネレーターやバッテリーを購入する必要があるため、高額となることが判明した。検討の結果、自治医科大学に備え付けられているハーモニック1台以外は電気メスのみを用いたトレーニングとする方針とすることが報告され、承認された。

(2) 令和5年度定例理事会・総合調整委員会日程表について

小野理事長より、資料に基づき報告された。

・昨年からの諮問事項があるので、継続してご検討いただきたい。
・秋季シンポジウム小委員会から、春に委員会を開催して、3年後のテーマを決めているが、その時点ではテーマを扱うことになる会長が決まっていないため、実際に開催することになる会長へのその後のフォローがない。会長が決定している2年後のテーマを議論し、会長にも話し合いに参加してもらう形にしても良いのではないか。秋季シンポジウム委員会・小委員会が企画・立案・構成等まで、ある程度関わっても良いのではないか、といった意見が出ていることが報告され、総合調整委員会で検討していただきたいと述べられた。

(3) 日本医学会連合門田班臨床外科グループキックオフミーティングについて

小野理事長より、資料に基づき報告された。

2) 次回定例理事会日程の確認（小野理事長）

次回定例理事会は令和5年7月27日(木)11:00~16:00 大阪大学東京オフィスにて開催

することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____